

台湾調査

台湾在住の日台国際結婚家庭における日本語意識：世代間の相違を中心に

東京外国語大学国際日本研究センター

谷口龍子

はじめに

2000年代以降、台湾各地で在台日本人配偶者による継承日本語ネットワーク形成への動きが顕著にみられるようになった。中でも2000年に開設された台北日本語授業校は、幼児から中学生まで90名に上る国際児に対し、在台日本人配偶者が持ち回りで日本語教育（毎週土曜2時間）を行っている公的認可校で、このように10年以上も継続的に行われている組織は、中国、韓国などの近隣諸国も含めて例を見ないという。

周知のように、台湾は、戦前50年におよぶ日本統治下で国語としての日本語教育が行われ、戦後は、国民党政権による日本語排除の歴史を持つ。現地に住む日本人配偶者により、継承言語教育として日本語教育が行われるには、当事者たちの動機や意志だけではなく、それらの活動を受け入れる今日の台湾における言語政策または言語教育に関わる行政、社会環境が整わなければ実現は難しいと思われる。

台湾在住の日台国際結婚家庭における日本語意識について、①現地の言語・教育政策の変化、②社会環境の変容、③日台国際結婚家庭の日本語意識の変化について考察することが本研究の最終的な目標である（①、②および台北日本語授業校の概要については、谷口（2013）で発表済みであるので、こちらを参照されたい）。

本報告書では、③日台国際結婚家庭の日本語意識について、世代の異なる日台国際結婚家庭（日本語補習校に通わせている新世代、戦後の日本排除時代、日本統治世代）に対して行ったインタビュー調査の内容を中心に報告する。

1. 調査期間：2012年3月5日～3月11日、2012年9月14日～9月20日、2013年2月28日～3月4日

2. 調査対象者

台湾在住の日台国際結婚家庭の成員（日本人配偶者、台湾人配偶者、および子供（国際児））。ここでは、便宜上、日台国際結婚家庭の日本人配偶者を世代毎に、新世代、日本語排除世代、日本統治世代に分ける。

3. 調査の概要

・現地における対面あるいは電話による聞き取り調査。筆記記録、あるいは IC レコーダーの録音による記録を文字化した。

4 インタビュー調査

4-1 新世代の日台国際結婚家庭

氏名	性別	生年	現住所	職業、その他	家庭言語 J=日本語 C=中国語 E=英語	子供、授業校への通学 F=女性 M=男性
N・A	F	1967	台北	看護師→主婦、米で結婚、1992 から台湾在住	J 母→子 C 父→子 C 夫婦	F (2002 生) 英、中のバイリンガルスクールに通学、幼稚園から授業校通学
M・S	F	1964	台北	米で結婚、1991 から台湾在住	E 夫婦 J 母→子 C 家族	F (1993 生),小2 から通学 F (1998 生)小1 から通学
K・K	F	1962	台北	翻訳業 1988 から台湾在住	J 母→子 C 夫婦 C 父→子	M (2001 生) 小1 から通学 M (1997 生) 幼稚園から通学、受験勉強のため辞めたが、中2 で補習校に再通学
Su・K	F	1962	台北	元日本語教師、日本で結婚	J / C	F (1991 生) F (1994 生)
E・M	F	1964	台北	ホテル業務、日本で結婚	J / C	M(1993 生) M(1997 生)
S・K	F	1965	台北	日本で結婚	J	M (1996 生) M (1999 生)
H・M	F	1967	台北	台湾で結婚	J 母→子 C 父→子 J 夫婦	F (2000 生)

主な質問内容：

- ① 家庭内外での日本語使用の状況
- ② ①についての台湾人配偶者、日本人配偶者、国際児の感想

- ③ 日本語補習校に子供を行かせる目的（あるいは行かせない理由）
- ④ 日本語補習校での活動についての感想（←主に国際児に対して）
- ⑤ 台湾社会での日本語使用についての考えあるいは今後の展望

インタビュー内容の抜粋

日本語補習校に子供を行かせる目的（あるいは行かせない理由）について：

NA・子供に日本語で話しかけても中国語で答えが返ってくるのが寂しい。家族で話す時もいつも中国語なので、母親の言葉を教えたいと思った。

- ・授業校は子供ばかりでなく、同じ境遇にいる母親たちにとっても一体感を感じる場となっている。夫は補習校通いに賛成している。

NA の子供・補習校には幼稚園から通っている。補習校は楽しい。日本語を覚えたり、友達もできて歌も歌える。

MS・日本語能力の向上が目的。将来、父親を亡くして、急に日本に帰国する可能性もある。その際に日本でしっかり生活できるような語学力を身につけさせておきたい。

- ・日本の四季や価値観などがわかる日本の小学校の教科書を使って日本語を教えたいと思った。

- ・子供たちは日本が好きで、将来日本で働きたいと思っている。特に下の子供は日本の物しか着ないし、日本のドラマや番組しか見ない。

- ・子供たちは補習校に通うようになり、小さな社会でのアイデンティティを意識するようになった。上の子供はハーフに敏感で、同じ境遇の子供たちと一緒にいることで安心するようだ。小学5年から学校の宿題が増えて授業校に通わせることは大変だったが、続けさせた。

- ・夫は授業校通いにおおむね賛成している。
- ・補習校に子供を行かせない家庭もある。社会で使われている言葉を学ばせるべきだ、子供が日本語を覚えると台湾人の父親と会話ができなくなるなどの理由である。

KK・なでしこ会（日本人婦人会）から呼びかけがあり、軽い気持ちで行かせた。そこで自分と同じような家庭と知り合い、自分達が特別ではないことを知った。

KK の子供 M (1997 生)・補習校はとっても楽しかった。特に発表会が楽しかった。現在(高校)でも日本語を選択して習っている。

KK の子供 M (2001 生)・絵本を読んだり、しりとりが楽しかった。

KK の台湾人配偶者・子供たちが補習校に通うことに反対はしない。

SK・近所の人に誘われて行かせたが、ガールスカウトの活動と重なり、大変になったので、今は行かせていない。

EM・自分が体を壊し、子供を連れていくことができなくなったので、授業校通いは3か月で辞めてしまった。夫が日本語が堪能なので授業校にあまり積極的ではない。

HM・自然に子供に日本語を学ばせたいと思った。日本人学校では日台国際結婚家庭の児童

は差別されると聞いている。

SK さんの子供（1996 生）・小学校 5 年次で歴史を習った時に、教員やクラスメートにいじめられた。しかし、その後、日本語能力試験 1 級に合格したら、逆に一目置かれるようになった。台湾人の父親のことはあまり好きではない。

インタビューからわかったこと

- ・日台国際結婚家庭の成立パターンの多様化が特筆される。台北日本語授業校に子供を通わせている家庭は、家庭内で日本語以外の言語が使われているところが多い。夫婦が出会った場所が台湾あるいは第三国であり、台湾人配偶者は日本語があまりできないという理由がある。子供と日本語で会話をしたいという母親としての望み、親の離婚や死別などにより将来日本に帰国する可能性もあることを考えて子供の将来のために日本語能力を身につけさせたいという実学目的もある。

- ・同じ境遇の仲間と時間を共有し話し合えることで、授業校は、日本人配偶者、子供の双方にとって心の拠り所になっている。また、母と子という一対一の関係ではなく、授業校というコミュニティが子供たちを育ててゆくという役割も担っている。

- ・その一方で、台湾の家庭や児童との差別化も意識下に醸成されつつある日本人配偶者や子供もいる。

- ・台湾の学校は宿題がとても多いので、子供の勉強の重荷になったり、クラブ活動に専念するために辞めざるをえなくなることがある。特に勉強の負担がより増える高学年になると辞めるケースが多い。

- ・台湾人の父親が日本語ができる家庭は、授業校へ通うことをあまり進めないようである。

- ・現地社会に溶け込むために、現地の言語を学ぶべきだという考えを持つ家庭は子供を補習校へ行かせない。

4-2 日本語排除世代の日台国際結婚家庭の日本人配偶者

	性別	生年	現住所	職業	家庭内言語	子供
O・S	F	1941	台北	元大学教員 (日本語)	J, 夫の母親は日 本人	F(1972 生) 日本留学経験有

日台国際結婚家庭の国際児

氏名	性別	生年	父籍	母籍	出身	現住所	職業	家庭使用言語	その他
J・J	M	1954	台湾	日本	新竹	苗栗	会社員	客家語	日本語×

W・W	M	1945	台湾	日本	神戸	新竹	日台貿易	J	小4時に台湾へ
W・M	F	1964	中国	日本	台北	台中	大学教員 (日本語 専門)	C	

主な質問内容

- ① 家庭内外での日本語使用の状況
- ② ①についての台湾人配偶者、日本人配偶者、国際児の感想
- ③ 日本語補習校での活動についての感想
- ④ 台湾社会での日本語使用についての考えあるいは今後の展望

インタビューの抜粋：

WM・台湾人の父親が国家公務員で官舎に暮らしていた。日本語を使うといじめられることから、外では一切日本語を使わなかった。

JJ・日本人の母親は客家語が大変流暢だったので、家庭では客家語しか使わなかった。

だから、自分はまったく日本語ができない。母親は家でも外でも一切日本語を使わなかった。

WW・小学校4年の時に神戸から台湾の彰化に引っ越した。田舎だったので、日本語の使用は制限されなかった。朝礼時に自分だけが靴をはき、他の子供たちは裸足だったのでに気付き、優越感を感じたことを覚えている。

・台湾語が下手で最初はよく笑われたが、年上だったので、けんかはずっと勝っていた。また、成績もトップクラスだったのでいじめには遭わなかった。

OS・国際社会のために様々な言語を習得することは大切なので、子供を授業校に通わせることには賛成する。

インタビューからわかったこと

日本語排除の世代と言われているが、地方では日本語の使用がそれほど制限を受けなかったところもある。日本語使用への意識や頻度は、家庭内で大きく異なる。この世代で日本語が使える人材は現地に少ないことから日本語が使える者はその強みを生かした職業に就いている。

4-3 日本統治世代の日本人配偶者

氏名	性別	生年	現住所	職業	家庭内言語	子供
O・E	F	1935	台北	主婦	J	F(1947生)

Y・Y	F	1920	台北	主婦	J	なし
U・K	F	1936	台北	主婦、元日本人婦人会会長	J 母→子 C 子→父	M(1957 生) M(1958 生) F(1959 生)
H・C	F	1929	台北	主婦	J	F (1959 生)

主な質問内容

- ① 家庭内外での日本語使用の状況
- ② ①についての台湾人配偶者、日本人配偶者、国際児の感想
- ③ 日本語補習校での活動についての感想
- ④ 台湾社会での日本語使用についての考えあるいは今後の展望

インタビューの抜粋：

HC・昔は、結婚したら日本籍を捨てなければならなかったもので、台湾に来るには、覚悟が必要だった。今は、台湾が嫌なら日本に帰ればよい。

- ・台湾に来た時は、台湾語ができないからいじめられたが、悔しいから一生懸命勉強してそのうち台湾語が上手になった。
- ・台湾の学校は宿題がとても多くて大変なのに、現代の日台国際結婚家庭の児童を授業校に行かせるのには反対する。子供の負担が多くてかわいそうだ。

UK・嫁いだばかりのころ住んでいた教員宿舎では、家のごみを捨てられたり、悪質ないじめに遭い、とても嫌な思いをした。

- ・日本語を使う老人ホームに時々行く。
- ・次男は下手な日本語を一生懸命に話そうとしてくれる。娘も日本語は下手だが、日本のテレビドラマは大好きでよく見ている。

インタビューからわかったこと

この世代の家庭内言語は日本語であり、日本人配偶者は専業主婦が多く、夫婦は現在でも日本語でコミュニケーションをとっている。しかし、子供は現地の学校に進み、台湾社会で家庭を築いている。新世代の家庭が子供を授業校に行かせることについては子供の負担が大きいという理由で好意的ではない者もいる。

おわりに（調査結果要旨）

戦前は、台湾人が日本留学時に日本人女性と結婚するパターンがほとんどで、家庭内の使用言語は日本語だったが、子供たちにはできるだけ台湾語を使わせ、台湾の社会に順応するようにしつけていた。使用言語も含めて台湾社会への配慮や適応に力点が置かれていたと思われる。

しかし、今日は、台湾や別の国で出会い、中国語や英語でコミュニケーションを取る日台国際結婚家庭も増え、日台国際結婚家庭の夫婦の力関係や使用言語にバラエティがあることから、子育ても多様化している。日台国際結婚家庭の成立パターンや家庭内での使用言語の変化が継承日本語への意識を生んだ要因の一つにあると言えよう。また、勤務先の移動や離婚などにより、居住地の選択肢も増えていることから、様々な可能性に備えて、子供に教育を受けさせる必要があるという現実もある。日台国際結婚家庭の成立パターンの多様化により、子供たちの将来に向けた実利目的として日本語教育を考えることや、子供と日本語で話をしたいという日本人配偶者の欲求は共感を呼ぶものである。今日では、現地社会への適応や配慮よりも個の欲求や目的を重視する意識の強さが継承日本語教育への動きを活発化させているといえる。しかしながら、継承日本語教育への動きは、現地においてマイノリティである日台国際結婚家庭の日本人配偶者や子供たちにとって拠り所となると同時に、台湾人家庭との差別化を意識的あるいは無意識のうちに助長させることも起り得るという事実も否めないであろう。

調査に関連する発表論文

- ・谷口龍子「日本語排除から日本語受け入れへー戦後台湾における言語政策、社会的環境の変容と継承日本語との関わりー」, 『東京外国語大学論集』, 86号, 2013年
- ・呉翠華・谷口龍子「論児童歌謡教育與生活美学培育之關係ー以日本唱歌、童謡教育為例」, 『生活美學與芸術』商鼎数位出版有限公司,, 2012年（日本統治世代へのインタビューを通じて、日本語の歌が現代の老後生活の欠かせない大きな楽しみの一つとなっていることが観察され、その事実についてまとめたものである）

謝辞

本調査にご協力くださいました台湾在住の日台国際結婚家庭の皆様にご心より感謝申し上げます。